



Graduate School of

Arts and Letters

文学研究科

独自のカリキュラムを持つ

9つの専攻により

文学・歴史・地理・人間の領域に挑む

文学研究科は、日本文学・英文学・仏文学・独文学・演劇学・史学・地理学・臨床人間学・文芸メディア専攻の9つの専攻から成り立っています。史学専攻においては、日本史学・アジア史・西洋史学・考古学の4専修、臨床人間学専攻においては、臨床心理学・現代社会学・教育学の3専修に分かれています。

これらの各専攻・専修は、それぞれの専門分野を深く極められることが出来るようにカリキュラムが組まれており、約100名の専任教員が担当しています。また、専任教員でカバー出来ないところは、兼任教員によって補充しており、少人数教育による指導を徹底しています。各専攻・専修での縦断教育のみならず、専攻の枠を超えた横断教育も行い、広い視野から専門を据え直すとともに、新しい研究領域の開拓を目指しています。



文学研究科Webページ

https://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/index.html



入学者の受入方針

(アドミッション・ポリシー)

https://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/policy/graduate_ap.html



教育課程編成・実施方針

(カリキュラム・ポリシー)

https://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/policy/graduate_cp.html



学位授与方針

(ディプロマ・ポリシー)

https://www.meiji.ac.jp/dai_in/arts-letters/policy/graduate_dp.html

大学院事務室（グローバルフロント5F）

※事務取扱時間（開室時間）はHPで確認してください。

電話●03-3296-4143 Mail●bunken@mics.meiji.ac.jp

※休業期間やイベント等により開室時間は変更となる場合があります。

● 人材養成その他の教育研究上の目的

文学研究科は、日本文学、英文学、仏文学、独文学、演劇学、文芸メディア、史学（日本史学、アジア史、西洋史学、考古学の4専修）、地理学、臨床人間学（臨床心理学、現代社会学、教育学の3専修）から構成され、いずれの専攻・専修においても、多角的な人文科学の基礎科学を修得しつつ、現代社会における人間存在の普遍的な課題の解明に寄与することを目的にしている。豊かな感性と鋭い理性を備え、高邁な精神文化と科学的な時間・空間認識を会得した優れた人材育成（博士前期課程では専門的知識を有する社会人を、後期課程では専門的に研究に携わる研究者の養成）を目標とする。

● 共通科目の設置

文学研究科では、専攻横断的、総合的研究領域の創設を目指し、博士前期課程に「総合文学研究」「総合史学研究」「人文社会科学のためのデータサイエンスとAI」、「特修外国語科目」、博士後期課程に「文化継承学Ⅰ～Ⅲ」を各専攻共通科目として設置しています。

● 専攻

文学研究科では専攻を9つの系列に大別し、専攻ごとに独自のカリキュラムを組み、複雑多様化する人文科学の諸分野をカバーし研究指導を行っています。

日本文学専攻	各時代別の文学および時代を限定しない国語学を研究するための科目を中心とし、更に日本文学史・日本文学特殊講義・漢文学など関係領域科目を設置。	→ P.68
英文学専攻	文学では、1500年代から現代に至るまでの演劇、小説、批評を中心としたイギリス文学、アメリカルネサンス期から現代に至るまでの小説や詩のほか、多岐にわたるジャンルのアメリカ文学、ならびに身体論、ジェンダー論、文化論などの理論を、英語学では、統語論、形態論、語用論、認知言語学、意味論、音声学・音韻論、文体論、語彙論、辞書学、日英対照言語学などを研究。	→ P.69
仏文学専攻	フランス文学、文法論的研究をはじめ、19・20世紀フランス思想、ルネサンス、近代の散文の分析、近・現代の詩の解明を対象とし、ブルーストやフランス演劇なども研究。	→ P.70
独文学専攻	近代現代文学を研究対象とし、思想、芸術、政治などの関わりで文学現象を考察出来る視点を持つよう指導。語学能力向上のための徹底した訓練も実施。	→ P.71
演劇学専攻	日本演劇と西洋演劇について広い視野を持って歴史的、論理的に研究する基礎を築きつつ、専門領域についての探究を深めるよう指導。	→ P.72
文芸メディア専攻 (修士課程のみ)	思想から風俗に至る文化的諸状況、特にメディア状況と文芸テキストの関係を総合的に考究する。 具体的には、メディアと大衆文化、都市・都市文化と文学、源氏物語をはじめとする古典文芸の受容、仏教思想・国学思想と文芸、近世文芸と近世メディア、出版史・出版研究、文芸思潮研究、創作特論、翻訳研究、表象文化論など。	→ P.73
史学専攻	社会的存在としての人間が営々と培ってきた諸国の歴史と、その結果もたらされたものの分析、更には各時代の文化の特質などを、研究対象に設置。 【日本史学専修】 古代から現代史までの幅広い領域を対象。 【アジア史専修】 アジア全域の全時代を対象。 【西洋史学専修】 西欧や国際関係史など幅広い領域での研究を展開。 【考古学専修】 東アジアでの日本の位置付けについても研究。	→ P.74
地理学専攻	地形・気候・環境などの自然地理分野、経済・社会・文化などの人文地理学分野、国内外を対象とした地域研究などを実施。	→ P.77
臨床人間学専攻	混迷をきわめる現代社会とそこに生きる人間について、心理・社会・教育の視点から探究するとともに、地域社会や個人を実践的に支援する専門家の育成を目的とする。 【臨床心理学専修】 他者の理解や援助を学問と実践の両輪で探求する。 【現代社会学専修】 現代世界におけるあらゆる社会を幅広く対象とする。 【教育学専修】 教育学、社会教育学、博物館学、図書館情報学における専門的・実践的調査研究と各領域を横断した総合的教育学の追究。	→ P.78

日本文学専攻

● 人材養成その他の教育研究上の目的

日本文学専攻は、古典から現代までの日本文学全般を多様な視座から究明するとともに、その統一の把握を目指す。従来の文献研究・テキスト批評を堅固な基礎としつつ、歴史に対する幅広い関心を持って新しい研究領域を切り開き、文学と社会の関連を明らかにする。このような実践を通して、日本文学の専門的研究者・教育者及び日本文化に関する高度な素養を身につけた教養人の育成を行う。

● 2024年度 修士論文テーマ

- ▶ 卑罵語の研究ー前接する名詞に着目してー
- ▶ 本居宣長の和歌実作論
ー『新古今集美濃の家づと』における評語「詞たらず」を中心にー
- ▶ 有島武郎文学における叛逆者とその行方
ー『カインの末裔』と『或る女』からー
- ▶ 〈魔術〉を目標とする少年探偵団ー江戸川乱歩「少年探偵団」シリーズにおける怪人二十面相と少年探偵団の関係性ー
- ▶ 「恋愛結婚イデオロギー」の視点から見る夏目漱石の前期三部作
- ▶ 1910年代の浅草のもたらしたファンタジー
ー谷崎潤一郎「秘密」「小僧の夢」「鮫人」論ー
- ▶ 北村太郎論ー『悪の花』を中心にー

● カリキュラム一覧

主要科目

日本古代文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
日本古代文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
日本中世文学演習A・B・C・D
日本近世文学演習A・B・C・D
日本近代文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
日本近代文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
日本近代文学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
国語学演習A・B・C・D
漢文学演習A・B・C・D
日本文学演習A・B・C・D

特修科目

日本古代文学特論ⅠA・ⅠB
日本古代文学特論ⅡA・ⅡB
日本中世文学特論A・B
日本近世文学特論A・B
日本近代文学特論ⅠA・ⅠB
日本近代文学特論ⅡA・ⅡB
日本近代文学特論ⅢA・ⅢB
国語学特論A・B
日本文学特殊講義ⅠA・ⅠB
日本文学特殊講義ⅡA・ⅡB
日本文学史特論A・B
漢文学特論A・B
日本文化学特論A・B
日本演劇特論ⅠA・ⅠB
日本演劇特論ⅡA・ⅡB
総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB
総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB
人文社会科学のためのデータサイエンスとAI

特定科目

日本文学特別指定講義Ⅰ
日本文学特別指定講義Ⅱ

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

● 院生からのメッセージ



アスリ・ノヴィタ・ヤスミン
ASRI Novita Yasmin
日本文学専攻
博士前期課程 2年

日本文学を通して視野を広げる

学部生のときに初めて日本文学作品に触れたことで、日本文学に興味を持ち、日本文学についてより深く研究しながら自分の視野を広げたいという思いが湧きました。大学を卒業し、明治大学大学院に進学し、グローバルな環境の中で、母国とは異なる文化や視点を持つ先生方や院生同士と出会うことで、さらに視野が広がっています。ゼミ形式の授業では文学作品について議論をして、自分の研究だけでなく、他の院生の研究にも触れながら、日本文学への理解を一層深めることができます。

Q 師事している教員は？

A 生方 智子 教授

日本近代文学の研究室では、近代文学作家の作品を対象にして様々なテーマを取り上げて議論します。昨年度の特論では、近代から現代まで各時代の文学作品を読んで、文学作品を読んで論じるにはどのような方法が可能であるかについて勉強してきました。

教員情報 P.82

英文学専攻

● 人材養成その他の教育研究上の目的

英文学専攻博士前期課程は、4専修から構成される。英文学・米文学・英語学専修では、各分野についての専門知識を身につけて後期課程に進学し、研究者への道を歩む人材の養成を目的とし、英語教職専修では、高度な専門知識を有する中高英語教員の養成を目指す。博士後期課程は、英文学・米文学・英語学の3専修から構成され、身につけてきた知識を基盤に各自の研究を発展させて博士論文を完成させ、その後も自立した研究を積み重ねていく人材を育てる。

● 2024年度 修士論文テーマ

- ▶ 喪失と克服の詩学
—— Louise Glückの作品における自己再生の旅 ——
- ▶ 日本人英語学習者の子音のintelligibilityに関する研究 — 非英語母語話者同士の文脈におけるLingua Franca Coreの再検討 —
- ▶ 仮定法倒置条件節における縮約形のふるまいについて
—— 助動詞の素性照合とデフォルト要素 ——

● カリキュラム一覧

主要科目

英文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
英文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
英文学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
英文学演習ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD
英文学演習ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD
米文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
米文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
米文学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
米文学演習ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD
米文学演習ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD
英語学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
英語学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
英語学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD

特修科目

英文学特論ⅠA・ⅠB
英文学特論ⅡA・ⅡB
英文学特論ⅢA・ⅢB
米文学特論ⅠA・ⅠB
米文学特論ⅡA・ⅡB
米文学特論ⅢA・ⅢB
英語学特論A・B
英語教職特論ⅠA・ⅠB
英語教職特論ⅡA・ⅡB
英語教職特論ⅢA・ⅢB
英語教職特論ⅣA・ⅣB
総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB
総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB
人文社会科学のためのデータサイエンスとAI

特定科目

英文学特別指定講義Ⅰ
英文学特別指定講義Ⅱ

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

● 院生からのメッセージ



塚本 浩貴

TSUKAMOTO Hiroki

英文学専攻
博士前期課程 2年

大学院進学という選択

私は、学部時代に培った専門分野の基礎をさらに発展させたいと考え、大学院進学を決意しました。少人数で、先生方との緊密なやり取りを通じて進められる大学院の授業では、単なる知識の受け手にとどまらず、主体的に学ぶ姿勢が養われ、それが私の進学目的の達成に大きく寄与していると感じています。進学前は、周囲と異なる選択に不安もありましたが、研究だけではなく、将来を見据えるきっかけを得られた大学院進学は、自分の人生において非常に大きな意味を持つ選択だったと考えています。

博士前期課程
Master's Program

Q 師事している教員は？ A 新城 真里奈 講師

研究室では、主に論文の輪読や各自の研究に関する口頭発表を行っています。先生は非常に丁寧に親身に接してくださり、学生の疑問や不明点にも一緒に向き合ってくれます。研究に対しては情熱的でありながら、それ以外の場面では穏やかで優しい雰囲気を持つ先生のおかげで、研究室全体が安心して研究に取り組める環境になっています。

教員情報 P.83

仏文学専攻

● 人材養成その他の教育研究上の目的

フランスとその文化は、一方ではギリシャ・ローマ、他方ではユダヤ・キリスト教の伝統に深く根ざしながら、常に様々な分野で斬新な創造を続けてきた。その役割は今も縮小してはならず、EU及び世界50ヶ国に及ぶフランス語圏の中心として、そこから学ぶべきものが多々ある。そのような状況の中で、仏文学専攻では、高度なフランス語運用力、フランス文化・思想・文学に関する広範な知識、繊細かつ大胆な国際感覚と実践力を備えた研究者、社会人、文化人の育成を目指す。

● 2024年度 修士論文テーマ

▶ 18世紀フランスの定期市芝居における身体と風刺性
—『人食い鬼の王アルルカン』の分析をもとに—

● カリキュラム一覧

主要科目

近代仏文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
近代仏文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
近代仏文学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
近代仏文学演習ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD
現代仏文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
現代仏文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
現代仏文学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
現代仏文学演習ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD
仏語学演習A・B・C・D

特修科目

近代仏文学特論ⅠA・ⅠB
近代仏文学特論ⅡA・ⅡB
近代仏文学特論ⅢA・ⅢB
近代仏文学特論ⅣA・ⅣB
近代仏文学特論ⅤA・ⅤB
現代仏文学特論ⅠA・ⅠB
現代仏文学特論ⅡA・ⅡB
現代仏文学特論ⅢA・ⅢB
現代仏文学特論ⅣA・ⅣB
仏語学特論A・B
フランス文学理論・思想研究Ⅰ・Ⅱ
総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB
総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB
人文社会科学のためのデータサイエンスとAI

特定科目

仏文学特別指定講義Ⅰ
仏文学特別指定講義Ⅱ

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

● 院生からのメッセージ



鈴木 ひかり

SUZUKI Hikari

仏文学専攻
博士前期課程 2年

大学院進学という選択

私はシャルロット・デルボという女性レジスタンスが残したアウシュヴィッツ3部作を研究しています。他専攻への進学を決めたのは4年の秋でした。フランス語は第二外国語でかじった程度で、院試のある1月まで卒論を書きながら、フランス語と文学史を学びました。大変でしたが、進学してよかったと確信を持って言えます。これを知らずして社会に出るのは勿体無かった、ということに出会えたからです。

もし決断を迷っている学部生の方がいれば、ぜひ挑戦してみてください。うか、と思います。

博士前期課程
Master's Program

Q 師事している教員は？ A 谷口 亜沙子 教授

仏文学専攻では、それぞれの先生が専門とする分野のテキスト精読や、フランス語での授業が行われます。大学院は少人数であるからこそ学びをより深められる場所なので、何事にも自分の意見と根拠を持ち、それを表明するという態度が求められます。

教員情報 P.84

独文学専攻

●● 人材養成その他の教育研究上の目的

ドイツ文学を歴史的コンテキストと現代的アクチュアリティを視野に入れながら研究することによって、ドイツの文化と社会についての理解を深め、日独の交流に役立つような人材を養成することを目的とする。このためには、学術的な討論ができる程度にドイツ語の運用能力を高め、同時にまた、日本のことをドイツ語で語ることができるような日本の文化についての深い教養を培う。

●● 2024年度 修士論文テーマ

▶グスタフ・マイリンク『ゴレム』の解釈
—明暗の表現を手掛かりに—

●● カリキュラム一覧

主要科目

近代独文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
近代独文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
現代独文学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
現代独文学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
現代独文学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
ドイツ文芸思想史演習A・B・C・D
独語学演習A・B・C・D

特修科目

近代独文学特論ⅠA・ⅠB
近代独文学特論ⅡA・ⅡB
現代独文学特論ⅠA・ⅠB
現代独文学特論ⅡA・ⅡB
ドイツ文芸思想史特論A・B
ドイツ古典文学特論A・B
総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB
総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB
人文社会科学のためのデータサイエンスとAI

特定科目

独文学特別指定講義Ⅰ
独文学特別指定講義Ⅱ

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

●● 院生からのメッセージ



南川 真央

NAGAWA Mao
独文学専攻
博士前期課程 2年

インテンシブな環境

授業の流れはドイツ語のテキストを読み、その内容について議論していくというものです。学部生の頃より教授と学生の距離が近く、集中的な学びを得られる環境です。ドイツ語を更に学びたい、研究を進めたい方には適した場所です。夏休み前に専攻内発表会があり、自身の研究の取り組み方について話す機会があります。教授や他学生から多くのアドバイスや質疑があるので、研究の手助けになります。皆様とお会いできる日を楽しみにしています。

博士前期課程
Master's Program

Q 師事している教員は？

A 渡辺 学 教授

各自のデスクが設置してあるため、本や必要な物を置いて自身の集中できる環境を作り上げています。また研究室内には他の院生も居るため授業や研究についての意見交換や何気ない会話が為されています。息詰まった時の助けになります。

教員情報 P.84

演劇学専攻

● 人材養成その他の教育研究上の目的

演劇学専攻では、博士前期課程においては、高度な専門的知識を修得した研究者の養成に加え、幅広く劇作家、演出家、戯曲・演劇の歴史的・理論的著作の翻訳家、演劇制作者などを目指す人材の養成を目的とする。博士後期課程においては、課程博士号の取得を目指す者を含めて、演劇学研究者を目指す人材の養成を目的とする。

● 2024年度 修士論文テーマ

- ▶ 上田久美子の作劇における社会批評性とその変容
- ▶ タデウシュ・カントル『死の教室』におけるマネキンの役割、俳優の存在意義
- ▶ 女性声優の演じる男性キャラクターの研究

● カリキュラム一覧

主要科目

演劇学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
演劇学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
演劇学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
日本演劇演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
日本演劇演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD

特修科目

演劇学特論ⅠA・ⅠB
演劇学特論ⅡA・ⅡB
日本演劇特論ⅠA・ⅠB
日本演劇特論ⅡA・ⅡB
西洋劇文学史特論ⅠA・ⅠB
西洋劇文学史特論ⅡA・ⅡB
西洋劇文学史特論ⅢA・ⅢB
言語芸術特論A・B
総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB
総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB
人文社会科学のためのデータサイエンスとAI

特定科目

演劇学特別指定講義Ⅰ
演劇学特別指定講義Ⅱ

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

● 院生からのメッセージ



上 釜 理 紗 子

UEKAMA Risako

演劇学専攻
博士前期課程 2年

「好き」を続ける意思

私が学部に入學した年はコロナ禍の真っ只中で、劇場や映画館に行くことが「不要不急」とされ、大好きな演劇が社会から切り捨てられるのを目の当たりにした時期でした。演劇も演劇学も全ての人が必要とするジャンルではなく、大学院に進んでまで学ぶべきかと迷うこともありましたが、学びに対する消化不良と、自分の「好き」を貫きたいという思いで進学しました。現在は演劇について毎日語り、常に新しい刺激を得ることが出来ており、「好き」を貫いてよかったと実感しています。

Q 師事している教員は？

A 井上 優 教授

私の所属する研究室は、毎週一人ずつ学生が各自の研究の進捗状況を口頭発表する形で授業が行われています。教授だけでなく、学生も質問や感想を述べることで、違う文脈からの視点の文献に出会い、お互いに新たな発見や観点を得ることができ、より広い見識を持って研究が進められると実感しています。

教員情報 P.84

文芸メディア専攻

● 人材養成その他の教育研究上の目的

文芸メディア専攻は、「メディア環境の中の文芸」という立場を設定し、メディアとは何かという問題意識を重く踏まえた上で、「文芸というメディア」及び「メディアとしての文芸」の視座から文芸研究・メディア研究に取り組む。文芸への深い知識と教養を兼ね備えながら、言語テキストとそれが置かれたメディア環境の相互的関連を視野に収める専門的知識人の育成を目指す。

● 2024年度 修士論文テーマ

- ▶ 統括主体の欲望と過ち
— 小川洋子「人質の朗読会」論 —
- ▶ 御竈殿と温羅の首
— 「鬼城縁起」にみえる鬼神の死をめぐる —

● カリキュラム一覧

主要科目

文芸メディア演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
文芸メディア演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
文芸メディア演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
文芸メディア演習ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD
文芸メディア演習ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD
文芸メディア演習ⅥA・ⅥB・ⅥC・ⅥD

特修科目

文芸メディア特論ⅠA・ⅠB
文芸メディア特論ⅡA・ⅡB
文芸メディア特論ⅢA・ⅢB
文芸メディア特論ⅣA・ⅣB
文芸メディア特論ⅤA・ⅤB
文芸メディア特論ⅥA・ⅥB
日本文芸史特論A・B
表象文化特論A・B
表現創作特論A・B
メディア分析特論A・B
近現代文芸特論A・B
伝承文学特論A・B
総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB
総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB
人文社会科学のためのデータサイエンスとAI

特定科目

文芸メディア特別指定講義Ⅰ
文芸メディア特別指定講義Ⅱ

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

● 院生からのメッセージ



上野 日向

UENO Hinata
文芸メディア専攻
修士課程 2年

テキストを通じて、孤独な旅をする

私は、村上春樹のテキストを対象として、作中における都市や場（トポス）といった視座からの分析・読解を主な研究テーマとしています。様々な授業や議論から得られる知見を活かして研究に励んでいます。さて、自分自身の手でテキストという無限の空間を切り拓いていくことを求められるのが文学研究です。それは答えのない問いを追求する孤独な闘いであると同時に、テキストを通じて「私」という存在の内面を深く旅することでもあります。そんな孤独を分かち合う仲間をお待ちしています。

Q 師事している教員は？

A 能地 克宜 准教授

日本の近現代文学を主として、その舞台となる都市と文学の関係性や、ことばをめぐる現実と虚構の関係性について学んでいるほか、各々の研究対象とするテキストに関連した発表や議論を行っています。また、文学にまつわる街や都市を実際に歩く「文学散歩」も定期的に行っており、「文学」というものを座学のみならず実践的に学べる場です。

教員情報 P.85

史学専攻

●● 人材養成その他の教育研究上の目的

史学専攻

史学専攻は、日本史学・アジア史・西洋史学・考古学の4専修から構成され、研究素材である各種史資料の分析に基礎を置く実証主義と歴史を生み出したフィールドを重視する実践主義を教育・研究の柱とし、学際的・国際的視点を伝統的に重視している。近年は、専攻が属す研究科の特性を生かし、文学研究科諸専攻との学際協力も緊密である。その研究・教育を通じ、史学専攻は、歴史学の専門研究者及び教育者並びに豊かな歴史への素養を身につけた高度教養人を育成することを目的とする。

日本史学専修

日本史学専修は、日本の歴史を多様な視座から究明するとともに、その統一的把握を目指す。その研究・教育は、各種史資料の批判的検討やフィールドワーク等による実証を基礎とするとともに、視野を隣接諸科学にも広げ、また、国際的視野に立つことを目指す。日本史学専修ではそのような教育・研究の実践を通じ、日本史学の専門的研究者・教育者及び日本史学の高度な素養を身につけた教養人の育成を目標とする。

アジア史専修

アジア史専修は、中国・朝鮮の東アジア史研究を大きな柱に、西アジア史をもう一つの柱に据え、文献資料や出土史料の分析だけでなく、現地調査や外国研究者との交流も積極的に推進して研究を進める。博士前期課程ではアジア諸地域に対する深い学識を持った高度教養人を、博士後期課程では国際的発信力を持った研究者を養成する。

西洋史学専修

西洋史学専修は、人間社会の歴史的探求をその本旨とするが、中でも西洋の古代から現代までを見通してそれを行う。また、世界に対する幅広い見識と歴史についての深い理解と教養を身につけて、それを基に自分自身をしっかりと表現でき、人類の発展に寄与できる人間形成を目指す。

考古学専修

考古学専修は、遺跡・遺物といった物質資料に基づき文字の無い時代を含めた歴史の再構築を目指す学問である。その教育・研究は、発掘・測量調査又は遺物実測などによる現場性・実証性を基礎に置くと同時に、視野を隣接諸分野・諸外国に広げ、考古学的研究成果を歴史学の大きな枠組みの中に位置づけることを目指す。本専修では地道な基礎研究に加えて、学際的・国際的研究活動に参加することを通じて、考古学の専門的研究者、地方自治体の文化財担当者、博物館学芸員、教育者及び考古学の高度な素養を身につけた教養人の育成を目的とする。

●● カリキュラム一覧

主要科目

【日本史学専修】

日本史学研究ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
日本史学研究ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
日本史学研究ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
日本史学研究ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD
日本史学研究ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD
日本史学研究ⅥA・ⅥB・ⅥC・ⅥD
日本史学研究ⅦA・ⅦB・ⅦC・ⅦD
日本史学研究ⅧA・ⅧB・ⅧC・ⅧD
日本史学研究ⅨA・ⅨB・ⅨC・ⅨD
日本史学研究ⅩA・ⅩB・ⅩC・ⅩD

【アジア史専修】

アジア史研究ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
アジア史研究ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
アジア史研究ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
アジア史研究ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD
アジア史研究ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD

【西洋史学専修】

西洋史学研究ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
西洋史学研究ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
西洋史学研究ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
西洋史学研究ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD
西洋史学研究ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD
西洋史学研究ⅥA・ⅥB・ⅥC・ⅥD

【考古学専修】

考古学研究ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
考古学研究ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
考古学研究ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
考古学研究ⅣA・ⅣB・ⅣC・ⅣD
考古学研究ⅤA・ⅤB・ⅤC・ⅤD

特修科目

日本史特論ⅠA・ⅠB
日本史特論ⅡA・ⅡB
文化史特論A・B
思想史特論A・B
アジア史特論ⅠA・ⅠB
アジア史特論ⅡA・ⅡB
西洋史特論ⅠA・ⅠB
西洋史特論ⅡA・ⅡB
考古学特論ⅠA・ⅠB
考古学特論ⅡA・ⅡB
考古学特論ⅢA・ⅢB
考古学フィールドワークA・B
総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB
総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB
人文社会科学のためのデータサイエンスとAI

特定科目

史学特別指定講義Ⅰ
史学特別指定講義Ⅱ

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

2024年度 修士論文テーマ [抜粋]

■ 日本史学専修

- ▶ 松岡外交の再検討—独ソ認識をもとに—
- ▶ 戦時下国民学校の「統合」の理念とその実践
—教科教育・教科外教育の分析を中心に—
- ▶ 明大闘争から見る1960年代後半の学生運動
—全共闘運動を当事者の証言から再考する—
- ▶ 戦友会による戦地再訪と戦時中の加害行為認識
—造部隊戦友会と改革開放期の中国・山西省の交流を例として—
- ▶ 土族反乱についての研究
—佐賀の乱との比較からみる西南戦争の独自性—
- ▶ 着到状の出現と機能的展開
- ▶ 剣璽の内侍に関する基礎的考察
- ▶ 中世後期から近世初期の北関東における地域権力と官途状
—結城氏と多賀谷氏を中心に—

■ 西洋史学専修

- ▶ 17世紀デルフトにおける空間的表象と都市アイデンティティ
—都市記述と装飾地図の分析から—

■ アジア史専修

- ▶ 15・16世紀中部アナトリア地域遊牧民の社会・経済活動
—1484・1500・1570年カイセリ県租税台帳の比較考察—
- ▶ 16-17世紀オスマン帝国におけるコーヒーハウス禁止令
—ムラト4世による禁止令の背景と社会経済的影響—
- ▶ スルターン・バイバルス期マムルーク朝の対外関係
—キリキア＝アルメニア王国の位置づけを中心に—
- ▶ 元明時代南京における監察官制—都察院を中心として—

■ 考古学専修

- ▶ 狩猟採集民の移動形態と石器製作の多様性
—関東平野「V層・IV層下部段階」を対象として—
- ▶ 近畿地方における韓式系土器の受容と画期について
- ▶ 東日本における石製模造品祭祀の受容過程
- ▶ 弥生時代中期中葉の東遠江・南信地域における土器の変遷・形成過程
と地域間関係

史学専攻

● 院生からのメッセージ



吉井 有

YOSHII Aru

史学専攻
日本史学専修
博士前期課程 2年

史料から営みを見出す

私は近世の複合災害と復旧について、川除普請を中心に研究を行っています。大学院での学びは主体的に取り組むことが重要です。さまざまな専門を持つ先生方や院生同士の交流や、時には現地調査など、多くの学びの機会があります。明治大学は、研究活動を下支えする快適な環境が整っており、図書館の豊富な蔵書も魅力的です。私は学芸員を目指して大学院に進学しました。史料を読み、史料から社会や制度、そして営みを見出すこと、また、それを伝えることを日々意識しています。

博士前期課程
Master's Program

Q 師事している教員は？

A 野尻 泰弘 教授

研究室では、ゼミ生の研究報告のほか、史料の読解と分析を行っています。また、明治大学博物館と連携して行う未整理文書の整理のほか、有志の課外活動として、町田市自由民権資料館や、流山市立博物館へ赴き、史料整理を行っています。さまざまな史料に向き合える実践的環境は、史料の見方を養うことができ、研究の大きな糧になります。

教員情報 P.85



佐藤 伊織

SATO Iori

史学専攻
アジア史専修
博士前期課程 2年

知見を深め、視野を広げる

私は日中戦争下の華中における製糸業統制政策の変容について研究しています。大学院では少人数のゼミ形式の授業が基本なので、先生方やほかの院生たちと共有する時間が多く、様々なテーマの分析・議論を通して、自らの見識を深めていくことができます。また、様々な学生支援制度や大学図書館の豊富な蔵書、多くの外部データベースを利用でき、自身の研究をより深めていくための恵まれた環境があります。研究を深めていきたいと考えている方、ぜひ、大学院で共に学んでいきませんか？

博士前期課程
Master's Program

Q 師事している教員は？

A 高田 幸男 教授

研究室では中国近現代史に関する様々なテーマを研究対象とし、院生による研究報告、輪読などを行っています。ほかの研究室に比べ、多くの留学生が所属しているため、多様な視点からの議論が活発に行われています。様々な研究テーマを持つゼミ生同士で交流する中で、新たな視点や発見をもたらしてくれます。

教員情報 P.86



森倉 健斗

MORIKURA Kento

史学専攻
西洋史学専修
博士前期課程 2年

広がる知識、深まる思考

私は古代ギリシアにおける全ギリシアの聖域、とりわけデルフォイにおける聖域の管理について研究しています。卒業論文執筆中に見えてきた課題を解決したいと思い、大学院進学を決意しました。明治大学の研究環境は充実しており、多様な学生支援制度、院生共同研究室、大学図書館を活用することができます。また、様々な授業で知識を広げ、自身の研究で思考を深めることができます。その中で得た知識と思考は、この世界の問題を考える際に有用です。大学院で共に学び、共に自己研鑽しませんか。

博士前期課程
Master's Program

Q 師事している教員は？

A 古山 夕城 准教授

研究室では、西洋古代史に関する基本知識を身につけるためのテキストを講読しています。テキストの言語は英語です。一文一文正確に、そして意味を考えながら読むため、語学力、特に精読力が身につきます。また定期的に自分の研究発表を行い、指導教員からアドバイスをもらいます。そのため研究を順調に進めることができます。

教員情報 P.86



塩原 健

SHIOBARA Takeru

史学専攻
考古学専修
博士前期課程 2年

遺物から学ぶ考古学

学部卒業後、遺跡の発掘に携わる仕事をしていました。この先も考古学を仕事にする上で、その素養を身につける必要性を痛感しました。遺物の観察法や自身の専門分野についての深い知識がそれです。考古学研究室には資料が收藏されており、実際の遺物に触れながら観察法を学び、議論することができます。明大博物館には全国の報告書・論文が揃い、読みたいときにすぐ手に入れることができます。明治大学ならば、興味関心を大いに伸ばし、自身の可能性を大きく広げる時間を過ごせるはずです。

博士前期課程
Master's Program

Q 師事している教員は？

A 藤山 龍造 教授

旧石器時代から縄文時代を専門とされる先生です。ゼミでは徹底的に遺物に基づいた議論が交わされます。さらに、観察法や分析法、有効な図版の作成方法なども学ぶことができます。研究室には、院生や学部生が活発に出入りしているので素朴な疑問点やアイデアなどを得る機会が多く、多様な視点の助けを借りながら研究を進められます。

教員情報 P.87

地理学専攻

● 人材養成その他の教育研究上の目的

地理学専攻は、グローバルな空間的視野を重視しつつ、都市や村落及びその複合体の地域構造を、社会・文化・経済・産業・行政・自然条件等の観点から実証的に探究する能力を持つ人材の育成を目的とする。その方策として、深い専門知識獲得のための体系的な学習指導を徹底し、かつ、フィールドワークによる継続的な実地教育と研究指導を実践する。

● 2024年度 修士論文テーマ

- ▶ 「SNS型消費空間」としての池袋一多主体のせめぎあいによる相互作用が作り出す「オタク街」の発展要因―
- ▶ シュミーズとチョコレート
― 呉の赤線地帯にみる「生／性」の営為について―
- ▶ 公営動物園の「再整備」による空間変容
― アクターネットワーク理論を用いた地理学的分析―
- ▶ スケートボードパークの整備にみる公共空間の管理と自治

● カリキュラム一覧

主要科目

自然地理学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
自然地理学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
人文地理学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
人文地理学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
人文地理学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
地誌学演習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
地誌学演習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
地誌学演習ⅢA・ⅢB・ⅢC・ⅢD
地理学合同演習A・B・C・D

特修科目

自然地理学特論ⅠA・ⅠB
自然地理学特論ⅡA・ⅡB
人文地理学特論ⅠA・ⅠB
人文地理学特論ⅡA・ⅡB
地誌学特論ⅠA・ⅠB
地誌学特論ⅡA・ⅡB
地理学フィールドワークA・B
総合文学研究ⅠA・ⅠB～ⅤA・ⅤB
総合史学研究ⅠA・ⅠB～ⅥA・ⅥB
人文社会科学のためのデータサイエンスとAI

特定科目

地理学特別指定講義Ⅰ
地理学特別指定講義Ⅱ

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

● 院生からのメッセージ



菅原 至
SUGAWARA Itaru
地理学専攻
博士後期課程 2年

共に研鑽しましょう！

私は近代日本の「南洋」の島々における文化接触と脱植民化について研究しています。経費の掛かるフィールド調査は、明治大学の丰厚的研究助成制度に支えられています。院生の専門領域や研究対象は多様ですが、事実の記述にとどまらない批判的分析を目指して共に研鑽しています。近年では他大学からの進学者も少なくありません。大学によって地理学教室の強みや雰囲気、研究環境は大きく異なるので、比較検討のうえで明治大学を選んでいただくと嬉しいです。進学相談もお待ちしております！

博士後期課程 Doctoral Program

Q 師事している教員は？ A 大城 直樹 教授

地理学教室は普段から一体となって活動しています。所属以外のゼミへの出席は特別なことではありませんし、全教員・院生が一堂に会する合同演習での研究報告は、幅広い知見から助言を頂く機会になっています。また、学部生向けの野外実習のいくつかは、院生中心で運営します。多忙な院生生活ですが、明治の地理学教室は豊かで刺激的な場所です。

教員情報 P.87

臨床人間学専攻

●● 人材養成その他の教育研究上の目的

臨床人間学専攻

今日の人間社会は、政治・経済・文化・教育の構造的変化を伴う未曾有の変動期を迎え、既成の価値観や人間関係の在り方を根底から揺るがす変化と混乱の事態に直面している。臨床人間学専攻は、現代社会が直面するこうした状況における心理・社会的危機の克服に向けて、個々の地域社会や個人を実践的に支援する専門家及び公的セクターで貢献する実践者を育成するとともに、直面する危機的状況のメカニズムを解明するための研究者を育成することを目的とする。

臨床心理学専修

臨床心理学専修は、今日の社会において緊急性の高いニーズである「心のケア」、すなわち、うつ病や不安障害等の心の病気、不登校やいじめ、無気力等の学校不適応、育児ストレス、児童虐待、家庭内暴力等の家族関係の問題など、あらゆる世代の個人及び様々な集団において生じる心理・社会的諸現象への専門的対処に直接的かつ具体的にアプローチする臨床心理学の専門家の養成と実践的な研究の推進を目指す。

現代社会学専修

現代社会学専修は、地球温暖化をはじめとする環境や生命の危機、グローバル化と情報化にともなう政治・経済・文化の構造的変化と格差拡大などの新たな問題、また世界的な人権意識の向上、差別解消や格差是正への要求の高まりなどをかかえ、社会システムのあり方を、持続可能でより平等で人権が尊重されるものに根底から作り変えるべき重要な地点にある。現代社会学専修は、現代社会の危機や新たな社会的問題の克服と、よりよい社会の創生に向けて、複雑な状況のメカニズムを解明する研究者と、具体的な活動に取り組む専門家および実践者を育成することを目的とする。

教育学専修

教育学専修は、多文化共生社会、およびデジタルアーカイブを主要な構成要素とする知識基盤社会における人間形成と生涯にわたる学びが重視される今日、「教育」という事象を教育現場と教育実践に焦点をあてつつ、教育学、社会教育学、博物館学および図書館情報学の4領域による横断的・多角的な教育研究をとおして、現代社会に求められる教育に関する幅広い知見と高度な専門知識を有した人材を育成するとともに、学校、公民館、博物館、図書館等の教育関係機関における教育実践を担う専門職の養成と再教育を目的としている。

●● カリキュラム一覧

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

専攻必修科目
臨床人間学総合演習 A～D
【臨床心理学専修】
専修必修科目
臨床心理学特論A・B
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）
臨床心理面接特論Ⅱ
臨床心理基礎実習A・B
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）・臨床心理実習Ⅱ
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ）
臨床心理査定演習Ⅱ
選択必修科目
【A群】心理学研究法特論（心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅳ）
心理統計法特論（心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅲ）
【B群】発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅱ）
人格心理学特論（心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ）
【C群】社会心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）
【D群】精神医学特論Ⅰ（保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ）
心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ）
障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ）
健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）
【E群】心理療法特論
グループアプローチ特論
（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ）
コミュニティアプローチ特論
（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ）
学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）
投映法特論A・B
臨床心理特別実習ⅠA・ⅠB（心理実践実習ⅡA・ⅡB）
臨床心理特別実習ⅡA・ⅡB（心理実践実習ⅢA・ⅢB）
特修科目
人文社会科学のためのデータサイエンスとAI

特定科目
臨床人間学特別指定講義Ⅰ
臨床人間学特別指定講義Ⅱ
【現代社会学専修】
専修必修科目
現代社会学総合演習A
現代社会学総合演習B
選択必修科目
現代社会学演習ⅠA・ⅠB
現代社会学演習ⅡA・ⅡB
現代社会学演習ⅢA・ⅢB
現代社会学演習ⅣA・ⅣB
現代社会学演習ⅤA・ⅤB
選択科目
共生ネットワーク論
バイオポリティックス論
社会福祉論
NPO市民活動論
コミュニティビジネス論
コミュニティ人間関係論
コミュニティ・デザイン論
地域開発論
地方自治論
特修科目
人文社会科学のためのデータサイエンスとAI

【教育学専修】
専修必修科目
教育学総合演習A
教育学総合演習B
選択必修科目
A群（教育学領域）
教育学演習ⅠA～ⅠD
教育学演習ⅡA～ⅡD
教育学演習ⅢA～ⅢD
教育学演習ⅣA～ⅣD
B群（社会教育学領域）
社会教育学演習ⅠA～ⅠD
社会教育学演習ⅡA～ⅡD
C群（博物館学領域）
博物館学演習ⅠA～ⅠD
博物館学演習ⅡA～ⅡD
D群（図書館情報学領域）
図書館情報学演習ⅠA～ⅠD
図書館情報学演習ⅡA～ⅡD
図書館情報学演習ⅢA～ⅢD
選択科目
A群（教育学領域）
教育システム論
思春期・青年期論
教師教育論
教育人間学
教育社会史特論
教授学習心理学特論
B群（社会教育学領域）
生涯学習特論
社会教育実践論
C群（博物館学領域）
博物館学特論
博物館マネジメント特論
博物館教育論特論
博物館メディア論特論
地域博物館論特論
D群（図書館情報学領域）
図書館情報学特論
専門図書館特論
情報サービス特論
図書館経営特論
図書館文化特論
図書館情報メディア特論
E群（社会学領域：現代社会学専修設置選択科目）
特修科目
人文社会科学のためのデータサイエンスとAI

2024年度 修士論文テーマ

■ 臨床心理学専修

- ▶ 月経前の症状が日常生活に与える影響
—ACTの中心的概念の調整効果に着目して—
- ▶ 親子間の情動調整と情動への評価の関連についての検討
—子どもが感情的になった場面での養育態度に着目して—
- ▶ 青年の経験した両親間葛藤への認知が対人葛藤方略に及ぼす影響についての検討
—日本版攻撃的・回避的両親間葛藤尺度の開発を通じて—
- ▶ 日本語版Attitudes Toward Transgender Men and Women (ATTMW) の作成と信頼性・妥当性の検討
- ▶ ホームレスに対するスティグマ尺度の作成
- ▶ サイバー心気症に関する研究—日本語版Cyberchondria Severity Scale(CSS)の作成と信頼性・妥当性の検討—
- ▶ 大学生生活に対するリアリティショックと適応感に関連する要因の検討
- ▶ ロールシャッハ・テストの協働的フィードバック・セッションにおけるプロセスと方法の研究—会話分析を用いて—
- ▶ 援助要請の「利益の予期」と「コストの予期」が自尊感情と被援助志向性の関連に及ぼす影響—大学生の友人への相談行為に焦点を当てて—

■ 現代社会学専修

- ▶ 居場所論と「ひきこもり」の「自分の居場所」
- ▶ 中国非大卒若者における性意識と性行動の実態について
—広東省の調査に基づいて—
- ▶ 親密性の多様性
—日本在住のアセクシュアルへのインタビューの分析から—
- ▶ 中国における怒江と虎跳峡ダム反対運動の比較研究
- ▶ 中国人留学生の帰国選択における影響要因
—インタビュー調査に基づく分析—
- ▶ 「コミュニケーション能力」に自信がない人々の「生きづらさ」に関する研究
——当事者による相談事例を基に——

■ 教育学専修

- ▶ 現代主権者教育の課題と論点
—戦後「主権者教育」史と公的資質の育成に注目して—
- ▶ 中国人留学生の博物館利用における意識の検討
—アンケート調査の分析を中心に—
- ▶ 博物館における古文書資料の特性を活かした効果的な展示方法の検討
—展示実践と来館者調査をもとにして—

臨床人間学専攻

● 院生からのメッセージ



三科 千裕

MISHINA Chihiko

臨床人間学専攻
臨床心理学専修
博士後期課程 2年

この環境の魅力

私は他大学で修士課程を修了し、臨床心理士として福祉の現場で働く中で研究の必要性を感じ、明治大学の博士後期課程に進学しました。現在も児童養護施設で働きながら、社会的養護におけるプレイセラピーの活用についての研究をしています。明治大学は経済的な支援制度が多く、進学してやりたいことがある人の背中を押してくれます。事例検討会や研究会などで様々な領域で活躍されているOB・OGの方々と話す機会も多く、たくさんの繋がりが生まれることが魅力的な環境だと感じています。

博士後期課程
Doctoral Program

Q 師事している教員は？ A 加藤 尚子 教授

普段のゼミは不定期に開催され、博士前期・後期の学生合同でそれぞれの研究の進捗を報告・検討しています。ゼミ合宿では学部生の卒論検討や院生によるワークショップなどを行い、学部生も一緒に学びを深めました。また、総合演習では所属している研究室の先生だけでなく、たくさんの先生からご助言をいただける機会があります。

教員情報 P.88



李 皓臻

LI Haozhen

臨床人間学専攻
現代社会学専修
博士前期課程 2年

研究という船に乗りませんか

大学院の一つの特徴は、少人数で長時間行われる授業を通じて、学生と教員との関係がより近くなることです。先生方は研究の道をご導いてくださる存在だけでなく、生活の面でも頼れる先輩のような存在です。明治大学大学院の魅力は、どの先生もとても親切で温かいところだと思います。私は男女対立現象を研究していますが、一人では見落としがちな視点もあります。そんな時、先生や院生の意見に助けられ、より深い理解へとつながっています。自分の関心がある方は、ぜひ一緒に研究しませんか？

博士前期課程
Master's Program

Q 師事している教員は？ A 平山 満紀 教授

私は平山研究室に所属し、主にジェンダー問題や人々のセクシュアリティに関する課題について研究しています。ジェンダーの視点からさまざまな問題に問いを投げかけるのが研究室の日常です。ここでは、誰の考えも大切にされ、尊重されます。コミュニケーションを通じて新しい知見を得て、自分を成長させるには最適な場だと感じています。

教員情報 P.89



古石 華子

FURUISHI Hanako

臨床人間学専攻
教育学専修
博士前期課程 2年

新たな知識と出会い、自身の視野を広げられる場所

学部時代は考古学専攻に所属していましたが、資格課程の一つである司書課程で学ぶ中でさらに図書館について学びたい、そして知識を更に蓄えた上で将来像を考えたいと思い進学しました。現在は、「公共図書館の障害者サービス」に関して研究しています。学部の頃より授業数は少ないけれど、その分、少人数の授業で濃密な時間を過ごすことができます。院生同士や先生との交流もいろいろな視点から好奇心が刺激される日々です。皆さんも新たな学びへの一歩を踏み出してみませんか。

博士前期課程
Master's Program

Q 師事している教員は？ A 齋藤 泰則 教授

教育学専修では、4領域ある各分野にてそれぞれが知見を深めながら、集まった際にはそれぞれの研究関心に対して議論しています。同じテーマでも異なる立場から意見やアドバイスをもらえるので、広い視点で研究への理解を深めることができます。異なる研究領域が集まり学び合える機会が定期的にあるのが魅力だと感じています。

教員情報 P.89

近年の博士学位授与〔抜粋〕

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(文学)	遠藤周作文学研究 ―ポストコロニアリズムと移動の観点から	2020年度
博士(文学)	The Reception History of Ferenc Molnár's 'Liliom' in Japan ―Translations and theatre adaptations―	2020年度
博士(文学)	野田秀樹作品における「神話」と「虚構」	2020年度
博士(史学)	大正・昭和期における日本陸軍の世論対策 ―陸軍省新聞班による対国内宣伝からみる陸軍の政治関与―	2020年度
博士(史学)	「満州国軍」に関する研究 ―日本による支配、利用およびその戦後―	2020年度
博士(史学)	明治維新期の藩政と国家 ―土佐藩を事例に―	2021年度
博士(史学)	佐々木惣一の憲法思想と国民国家 ―日本憲法の独自性と立憲主義の普遍性の間―	2021年度
博士(史学)	日独間の航空技術移転と日本航空機産業の自立化(1919～45年)	2021年度
博士(地理学)	ハワイ日本人移民の定着に関する文化地理学的研究 ―コナ・コーヒー・ベルトを事例に―	2021年度
博士(地理学)	九州におけるカルデラ形成噴火に伴う大規模火砕流堆積物からなる台地の形成過程に関する地形学的研究	2021年度
博士(史学)	明治から昭和戦前期における戸籍名の表記と音声 ―複名俗と一人一名制のあいだ―	2022年度
博士(史学)	南宋前期茶馬貿易史の研究	2022年度
博士(臨床人間学)	An Environmental Sociological Comparative Study on Analytical Perspectives of Environmental Justice and Recognition	2022年度
博士(文学)	『源氏物語』における仏教受容の研究 ―聖性の表象と陰影―	2023年度
博士(文学)	福永武彦におけるフィクションの方法 ―主体性の破壊と再構成の諸相―	2023年度
博士(史学)	戦間期における日本知識人のアメリカ認識 ―高木八尺と高柳賢三の言説分析からみる特徴と問題点―	2023年度
博士(史学)	13～14世紀モンゴル政権・地域社会と儒教 ―曲阜地域石刻の分析を通して―	2023年度
博士(史学)	土器の型式学に基づく南関東弥生後期社会の研究	2023年度
博士(文学)	「満州」植民地文学研究 ―移民、引揚げ文学における他者とジェンダーの観点から	2024年度
博士(史学)	日本古代の戸籍制度と支配体系	2024年度
博士(史学)	中国人日本留学生に対する日中両国政府の管理 ―1920、30年代における変化とその影響	2024年度
博士(史学)	ルーシにおける政治権力の形成 ―ベルミの宣教師ステファンとヴォルガの河川賊ウシクイニクの活動に見るモスクワ＝ノヴゴロド抗争―	2024年度
博士(史学)	古代日本における櫛文化と髪型	2024年度
博士(人間学)	簡略式 TAE の開発に関する研究―自己探索及びキャリア選択の支援法として―	2024年度

論文博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(文学)	大正期の翻訳オペラの研究 ―浅草オペラの興行、上演、演劇性を中心に―	2020年度
博士(文学)	演劇写真の誕生と展開 ―東京の役者、写真師、そしてメディア―	2020年度
博士(臨床人間学)	「生産の踏み車」論と「エコロジカル近代化」論の対立と相補性 ―環境・社会・ガバナンス(ESG)投資をめぐるグローバル環境ガバナンス―	2022年度
博士(史学)	大宰府成立過程の研究	2023年度
博士(地理学)	農山村の新しい内発的発展に関する地理学的研究 ―農村空間の商品化とコモنزの創造をめぐって―	2023年度
博士(史学)	戦国大名浅井氏と家臣たちの動向～北近江の中世後期における政治・社会構造～	2024年度

教員一覧

日本文学専攻

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 日本文学専攻 教員一覧 >>>



小野 正弘

ONO Masahiro

教授

研究分野 日本語の史的研究(文字・語彙・意味)

【最終学歴】東北大学大学院
【担当授業科目】国語学演習／国語学特論
【研究テーマ】意味変化の研究
(特に、中立的意味のプラス・マイナス化)



山崎 健司

YAMAZAKI Kenji

博士(文学)
教授

研究分野 日本古代の詩歌

【最終学歴】筑波大学大学院
【担当授業科目】日本古代文学演習Ⅰ／日本古代文学特論Ⅰ
【研究テーマ】萬葉集の編纂と伝来／大伴家持の作品／日本古代韻文の表現技法



杉田 昌彦

SUGITA Masahiko

博士(文学)
教授

研究分野 日本近世文学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】日本近世文学演習Ⅰ／日本近世文学特論
【研究テーマ】江戸時代の国学、とりわけ本居宣長の研究



牧野 淳司

MAKINO Atsushi

博士(文学)
教授

研究分野 平家物語と中世寺院文化研究

【最終学歴】名古屋大学大学院
【担当授業科目】日本中世文学演習Ⅰ／日本中世文学特論
【研究テーマ】延慶本平家物語の注釈的研究／中世寺院資料と唱導説経についての基礎的研究



竹内 栄美子

TAKEUCHI Emiko

博士(人文科学)
教授

研究分野 日本近代文学

【最終学歴】お茶の水女子大学大学院
【担当授業科目】日本近代文学演習Ⅲ／日本近代文学特論Ⅲ
【研究テーマ】プロレタリア文学や戦後文化運動を戦争・ジェンダー・植民地の観点から研究している



生方 智子

UBUKATA Tomoko

博士(文学)
教授

研究分野 日本近代・現代文学

【最終学歴】成城大学大学院
【担当授業科目】日本近代文学演習Ⅲ／日本近代文学特論Ⅲ
【研究テーマ】近代小説に描かれる欲望と幻想の形態



郭 南燕

GUO Nanyan

博士(人文科学)
教授

研究分野 日本近代文学、比較文学、日本文化

【最終学歴】お茶の水女子大学大学院
【担当授業科目】日本文学演習／日本文化学演習
【研究テーマ】日本文化における東西交流、日本語学、東アジアの基督教伝播



湯浅 幸代

YUASA Yukiyo

博士(文学)
准教授

研究分野 日本中古文(平安文学)、源氏物語受容史

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】日本古代文学演習Ⅱ／日本古代文学特論Ⅱ
【研究テーマ】主に物語や日記に描かれる「王権」や「もののけ」、「魂」と「心」の表現／古注釈をはじめとする源氏物語受容について



田口 麻奈

TAGUCHI Mana

博士(文学)
准教授

研究分野 日本近現代文学、近現代詩

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】日本近代文学演習Ⅱ／日本近代文学特論Ⅱ
【研究テーマ】国家や社会といった近代的共同性と日本の詩的言語の関係性



甲斐 雄一

KAI Yuichi

博士(文学)
准教授

研究分野 唐宋詩を中心とする中国古典文学

【最終学歴】九州大学大学院
【担当授業科目】漢文学演習
【研究テーマ】宋代における、出版文化を背景とした文学作品の流通と受容について

英文学専攻

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 英文学専攻 教員一覧 >>>



サトウ, ゲイルK.

SATO Gayle K

Ph.D.
教授

研究分野 Asian American literature, 20th-century American literature, War memory

【最終学歴】Brown University, Ph.D. in English
【担当授業科目】米文学演習Ⅱ
【研究テーマ】Transpacific Narratives of WWII, Literature and Post-Trump Politics



野田 学

NODA Manabu

教授

研究分野 英国演劇・言語身体論・演技受容史
(特に18世紀英国)

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】日本文学演習Ⅱ
【研究テーマ】英国演劇(初期近代、18-19世紀および現代)／演技・演出論および演技身体論、身体受容を巡る科学史、18世紀の英国経験主義を中心とした言語哲学



石井 透

ISHII Toru

Ph.D.
教授

研究
分野 理論言語学

【最終学歴】カルフォルニア大学アーバイン校大学院
【担当授業科目】英語学演習Ⅱ
【研究テーマ】統語理論・比較統語論



大山 るみこ

OYAMA Rumiko

Ph.D.
教授

研究
分野 映像記号論／文体論

【最終学歴】ロンドン大学大学院
【担当授業科目】英文学演習Ⅲ
【研究テーマ】Multimodal Texts分析、
文学教育とMultimodality



梶原 照子

KAJIWARA Teruko

博士(文学)
教授

研究
分野 アメリカ文学・文化

【最終学歴】立教大学大学院
【担当授業科目】米文学演習Ⅳ
【研究テーマ】アメリカ文学、特に、アメリカ詩における身体的な言説の系譜、文学ジャンルとモダニティの関係を探索。Walt Whitmanに焦点



竹内 理矢

TAKEUCHI Masaya

Ph.D.
教授

研究
分野 アメリカ文学・小説

【最終学歴】Kent State University
【担当授業科目】米文学演習Ⅲ
【研究テーマ】アメリカ南部文学、失われた世代、近代・家族



ワトソン, アレックス

WATSON Alex

D. Phil.
教授

研究
分野 英国ロマン主義、ポストコロニアル理論、
文学理論、英国の映画、ゴシック文学

【最終学歴】University of York
【担当授業科目】英文学演習Ⅳ
【研究テーマ】ロマン主義作品の注釈、
ロマン主義のアジアでの受容、19世紀太平洋地域の英文学



久保田 俊彦

KUBOTA Toshihiko

准教授

研究
分野 計量的な言語研究

【最終学歴】ロンドン大学・明治大学大学院
【担当授業科目】英文学演習Ⅱ
【研究テーマ】コーパスをはじめとする計量的手法による言語研究



塚田 麻里子

TSUKADA Mariko

講師

研究
分野 イギリス文学・文化 (特に19・20世紀)

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】英文学特論Ⅱ
【研究テーマ】紀行文学、第一次世界大戦前後の詩・小説



新城 真里奈

ARASHIRO Marina

講師

研究
分野 英語音声学

【最終学歴】東京外国語大学
【担当授業科目】英語学演習Ⅰ
【研究テーマ】英語音声学 (特にウェールズ英語)



横山 晃

YOKOYAMA Akira

博士(人文学)
講師

研究
分野 アメリカ文学・文化

【最終学歴】テキサス大学ダラス校大学院
【担当授業科目】米文学演習Ⅰ
【研究テーマ】19世紀後半から20世紀前半にかけて文学作品における都市の表象について

仏文学専攻

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 仏文学専攻 教員一覧 >>>



小島 久和

KOJIMA Hisakazu

教授

研究
分野 ルネサンス文化

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】近代仏文学演習Ⅲ
【研究テーマ】ルネサンス期の思想



合田 正人

GODA Masato

教授

研究
分野 19・20世紀フランス思想

【最終学歴】東京都立大学大学院／パリ第8大学大学院
【担当授業科目】現代仏文学演習Ⅰ
【研究テーマ】19・20世紀の独仏思想交渉史／
近代ユダヤ思想史／境界論



田母神 顕二郎

TAMOGAMI Kenjiro

文学博士
教授

研究
分野 フランス近・現代詩

【最終学歴】パリ第8大学大学院
【担当授業科目】現代仏文学演習Ⅱ
【研究テーマ】フランス近現代詩、精神医学、現代思想



根本 美作子

NEMOTO Misako

学術博士
教授

研究
分野 フランス文学／20世紀文学／
フランス現代批評／表象文化論

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】現代仏文学演習Ⅲ
【研究テーマ】言葉とアイデンティティ、個人と近代、
オートマチズムと個人、「日本」と近代



谷口 亜沙子

TANIGUCHI Asako

博士(文学)
教授研究
分野 現代フランス文学

【最終学歴】パリ第7大学／早稲田大学文学学術院
【担当授業科目】現代仏文学演習Ⅳ
【研究テーマ】詩(ポエジー)／歴史と記憶／戦争の表象



奥 香織

OKU Kaori

博士(フランス文学・文明)
准教授研究
分野 舞台芸術、劇文学、演劇美学／
18世紀フランス文学・文化

【最終学歴】パリ第4大学大学院
【担当授業科目】近代仏文学演習Ⅳ
【研究テーマ】演劇を中心とした18世紀フランス文学・文化／戯曲、理論、上演の関係にみる演劇美学の変容(17-19世紀)／オペラ＝コミックの生成と変容

独文学専攻

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 独文学専攻 教員一覧 >>>



福間 具子

FUKUMA Tomoko

博士(文学)
教授研究
分野 ユダヤ系ドイツ語文学と言語哲学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】現代独文学演習Ⅰ
【研究テーマ】ユダヤ系ドイツ語文学、特に現代詩／ウィーンのユダヤ文化



新本 史斉

NIMOTO Fuminari

文学修士
教授研究
分野 ドイツ語圏スイス文学、翻訳論、
ヨーロッパ越境文学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】現代独文学演習Ⅲ
【研究テーマ】＜翻訳者＝作者＞による創作、ドイツ語文学における多言語性、翻訳比較分析

演劇学専攻

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 演劇学専攻 教員一覧 >>>



マンデルルツ, ミハエル

MANDELARTZ Michael

Dr.phil.
教授研究
分野 ドイツ文学18～20世紀

【最終学歴】アーヘン工科大学大学院
【担当授業科目】ドイツ文芸思想史演習
【研究テーマ】ワイマール古典、ロマン主義／文学と哲学、宗教、自然科学／ドイツ・ユダヤ文学



伊藤 真紀

ITO Maki

教授

研究
分野 近代日本演劇

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】日本演劇演習Ⅰ／日本演劇特論Ⅱ
【研究テーマ】日本における近代演劇の展開を、同時代の社会全体との関わりから考察する



富重 与志生

TOMISHIGE Yoshio

教授

研究
分野 18世紀および現代ドイツ文学・芸術

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】近代独文学演習Ⅱ
【研究テーマ】特にカール・フィリップ・モーリッツ、レッシングそして20世紀の表現主義・ダダイズム以降の芸術・文学を研究



井上 優

INOUE Masaru

教授

研究
分野 演劇学／西洋演劇史

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】演劇学演習Ⅱ／西洋劇文学史特論Ⅲ
【研究テーマ】近代における西洋の上演体制の革新



岡本 和子

OKAMOTO Kazuko

博士(文学)
教授研究
分野 ドイツ近現代文学・芸術批評

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】近代独文学演習Ⅰ
【研究テーマ】ベンヤミンの芸術批評理論、近代ドイツ文学における幼年時代の記述可能性、都市ベルリンと文学



矢内 賢二

YANAI Kenji

博士(文学)
教授研究
分野 演劇学、日本芸能史

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】演劇学演習Ⅱ／日本演劇演習Ⅱ
【研究テーマ】歌舞伎を中心とする近世・近代の演劇に関する歴史的研究



渡辺 学

WATANABE Manabu

教授

研究
分野 日独言語文化研究／社会言語学／
文体・スタイル論／異文化コミュニケーション

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】独語学演習
【研究テーマ】言語文化史を踏まえながら現代ドイツ語の語彙・文体等を日本語と対照しつつ調査分析



大林 のり子

OBAYASHI Noriko

教授

研究
分野 演劇学／近現代欧米の舞台芸術史

【最終学歴】大阪大学大学院
【担当授業科目】演劇学演習Ⅱ／西洋劇文学史特論Ⅱ
【研究テーマ】20世紀前半の舞台芸術の展開－ドイツ語圏の演出家と協働舞台製作、その国際化とポピュラリティについて



伊藤 愉
ITO Masaru

准教授

研究分野 ロシア演劇史、日露文化交流史

【最終学歴】一橋大学大学院
【担当授業科目】演劇学演習Ⅲ／西洋劇文学史特論Ⅰ
【研究テーマ】ロシア／ソヴィエト・モダニズム演劇における演劇と社会



佐伯 和香子
SAEKI Wakako

博士（文学）
講師

研究分野 日本古典文学・口承文芸

【最終学歴】國學院大学大学院
【担当授業科目】文芸メディア演習Ⅰ、伝承文学特論Ⅰ
【研究テーマ】日本古典文学の民俗学的研究

文芸メディア専攻

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。



■ 文芸メディア専攻 教員一覧 >>>

史学専攻（日本史学専修）

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。



■ 史学専攻（日本史学専修）教員一覧 >>>



内村 和至
UCHIMURA Katsushi

教授

研究分野 日本近世文学・思想／明治初期戯作文学

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】文芸メディア演習Ⅱ／日本文芸史特論
【研究テーマ】上田秋成研究・禅思想研究・国学思想研究・戯作文芸研究



山田 朗
YAMADA Akira

博士（史学）
教授

研究分野 日本現代の政治史／天皇制研究／歴史教育論

【最終学歴】東京都立大学大学院
【担当授業科目】日本史学研究（演習）／日本史学研究（講義）
【研究テーマ】15年戦争期から戦後占領期を中心とする国家と軍事の関係、天皇制の役割、植民地支配に関する研究



中江 桂子
NAKAE Keiko

博士（社会学）
教授

研究分野 文化社会学 メディア文化論
生活文化論 身体と社会

【最終学歴】法政大学大学院
【担当授業科目】文芸メディア演習Ⅳ／表象文化特論
【研究テーマ】文芸とコミュニケーションの社会史的研究。生活文化と社会心理の重層的なかわりについての社会史的研究。身体とメディアに関する社会学



落合 弘樹
OCHIAI Hiroki

博士（文学）
教授

研究分野 日本近代史（明治維新史）

【最終学歴】中央大学大学院文学研究科
【担当授業科目】日本史学研究（演習）／日本史学研究（講義）
【研究テーマ】幕末維新期における国家の担い手の変動を、旧藩士族の存在を軸に研究をすすめている。



伊藤 氏貴
ITO Ujataka

博士（芸術学）
教授

研究分野 現代における文藝思潮

【最終学歴】日本大学大学院
【担当授業科目】文芸メディア演習Ⅵ／文芸メディア特論Ⅳ
【研究テーマ】「文学の終焉」と「藝術の終焉」との関係、またさらにそこへの「自我の終焉」のかかわり



高橋 一樹
TAKAHASHI Kazuki

博士（文学）
教授

研究分野 日本中世史・史料学

【最終学歴】大阪市立大学大学院
【担当授業科目】日本史学研究（演習）／日本史学研究（講義）
【研究テーマ】中世荘園制の展開過程について、都市・農村間の交通体系や文書論の視点から研究



能地 克宜
NOJI Katsunori

博士（学術）
准教授

研究分野 日本近現代文学

【最終学歴】早稲田大学大学院
【担当授業科目】文芸メディア演習Ⅲ／近現代文芸特論
【研究テーマ】室生犀星研究、浅草文芸研究、街と文学の研究、言葉と想像力の関係の研究



松山 恵
MATSUYAMA Megumi

博士（工学）
教授

研究分野 日本近代史（都市史、文化史）

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】日本史学研究（演習）／日本史学研究（講義）
【研究テーマ】日本近代都市史。おもに幕末から明治期にかけての日本都市の特質について、空間・社会・文化の諸相から総合的に考察



相良 剛
SAGARA Go

講師

研究分野 出版論

【最終学歴】ロンドン大学大学院
【担当授業科目】文芸メディア演習Ⅴ／文芸メディア特論Ⅴ
【研究テーマ】電子分野を含む出版メディアの分析



野尻 泰弘
NOJIRI Yasuhiro

博士（史学）
教授

研究分野 日本近代史（村落史、地域史、藩研究）

【最終学歴】学習院大学大学院
【担当授業科目】日本史学研究（演習）／日本史学研究（講義）
【研究テーマ】近世日本の支配・被支配の関係について藩領域を中心に研究



中村 友一

NAKAMURA Tomokazu

博士(史学)
准教授

研究分野 日本古代史(政治史・法制史・地域史)

【最終学歴】明治大学大学院
 【担当授業科目】日本史学研究(演習)／日本史学研究(講義)
 【研究テーマ】日本古代の慣習法・律令法の形成・展開と政治史・地域史の総合的研究



清水 有子

SHIMIZU Yūko

博士(史学)
准教授

研究分野 近世日本史(政治・外交・キリシタン)

【最終学歴】東京都立大学大学院
 【担当授業科目】日本史学研究(演習)／日本史学研究(講義)
 【研究テーマ】近世日本の対外関係史・政治史／キリシタン史／近世国家論



富山 仁貴

TOMIYAMA Noritaka

博士(歴史学)
専任講師

研究分野 日本現代史(社会史、地域史、教育史)

【最終学歴】関西学院大学大学院
 【担当授業科目】日本史学研究(演習)、日本史学研究(講義)
 【研究テーマ】20世紀日本における社会運動・学校教育の社会史

史学専攻(アジア史専修)

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 史学専攻(アジア史専修) 教員一覧 >>>



高田 幸男

TAKADA Yukio

教授

研究分野 中国近現代史
—特に教育史・江南地域社会史—

【最終学歴】明治大学大学院
 【担当授業科目】アジア史研究(演習)／アジア史研究(講義)
 【研究テーマ】20世紀中国における政治・社会・教育文化の変容—江南地域社会を中心に—／近代東アジア教育交流史



江川 ひかり

EGAWA Hikari

教授

研究分野 トルコ近代史

【最終学歴】お茶の水女子大学大学院
 【担当授業科目】アジア史研究(演習)、アジア史研究(講義)
 【研究テーマ】オスマン帝国社会経済史。具体的なテーマは、土地問題、人口・家族史、遊牧民を含めた地方社会の変容、演劇史



高村 武幸

TAKAMURA Takeyuki

博士(史学)
教授

研究分野 中国古代史(秦漢史)

【最終学歴】明治大学大学院
 【担当授業科目】アジア史研究(演習)／アジア史研究(講義)
 【研究テーマ】秦漢時代の文献・簡牘史料を用いた制度・社会の研究



櫻井 智美

SAKURAI Satomi

博士(文学)
教授

研究分野 中国近世史(宋元史)／モンゴル帝国史

【最終学歴】京都大学大学院
 【担当授業科目】アジア史研究(演習)／アジア史研究(講義)
 【研究テーマ】11～15世紀中国の政治制度・文化について考察し、東～内陸アジアの変容を跡づける



鈴木 開

SUZUKI Kai

博士(文学)
准教授

研究分野 朝鮮史・中国明清史

【最終学歴】東京大学大学院
 【担当授業科目】アジア史研究(演習)／アジア史研究(講義)
 【研究テーマ】朝鮮燕行使を中心とした朝鮮王朝の外交体制

史学専攻(西洋史学専修)

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 史学専攻(西洋史学専修) 教員一覧 >>>



豊川 浩一

TOYOKAWA Koichi

博士(文学)
教授

研究分野 ロシア近代の国家・社会・民族問題

【最終学歴】早稲田大学大学院
 【担当授業科目】西洋史学研究(演習)／西洋史学研究(講義)
 【研究テーマ】ロシア近代史。とくに近代の民衆運動と諸民族の動向に焦点をあてて、それらと政治構造や社会制度との関係を考える



水野 博子

MIZUNO Hiroko

Dr.Phil.
教授

研究分野 西洋近現代史

【最終学歴】オーストリア・グラーツ大学
 【担当授業科目】西洋史学研究(演習)／西洋史学研究(講義)
 【研究テーマ】「オーストリア国民」形成の歴史と文化、消防団の社会史、記憶文化史、境界領域研究



青谷 秀紀

AOTANI Hideki

博士(文学)
教授

研究分野 西洋中世史

【最終学歴】京都大学大学院
 【担当授業科目】西洋史学研究(演習)／西洋史学研究(講義)
 【研究テーマ】中世ヨーロッパの歴史叙述と歴史意識／中世ネーデルラント都市の宗教社会史



古山 夕城

FURUYAMA Yūgi

准教授

研究分野 西洋古代史／ギリシア古代史

【最終学歴】明治大学大学院
 【担当授業科目】西洋史学研究(演習)／西洋史学研究(講義)
 【研究テーマ】ギリシア世界における周縁地域の政治社会構造と異文化交渉／ギリシア古代における葬祭礼と国家



鰐淵 秀一
WANIBUCHI Shuichi

MA
准教授

研究分野 初期アメリカ史・大西洋史
(特に植民地時代から革命期)

【最終学歴】東京大学大学院、ハーヴァード大学大学院
【担当授業科目】西洋史学研究Ⅳ(演習)、西洋史学研究Ⅳ(講義)
【研究テーマ】北米植民地における社会文化史および環境史、アメリカ革命における公論と暴力



谷口 良生
TANIGUCHI Ryosei

博士(文学)
講師

研究分野 近現代フランス史

【最終学歴】京大大学院
【担当授業科目】西洋史学研究(講義・演習)
【研究テーマ】近代フランスの議会史／近現代フランス史の歴史叙述

史学専攻(考古学専修)

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 史学専攻(考古学専修)教員一覧 >>>





阿部 芳郎
ABE Yoshio

博士(史学)
教授

研究分野 先史考古学・縄文時代・生業論・資源利用史・型式学

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】考古学研究(講義)／考古学研究(講義)
【研究テーマ】学際的研究を通じて生業や社会構造から縄文文化の特質を描き出す



佐々木 憲一
SASAKI Ken'ichi

Ph.D.
教授

研究分野 国家形成期の考古学(古墳時代)

【最終学歴】ハーヴァード大学大学院
【担当授業科目】考古学研究(講義・演習)／総合史学研究
【研究テーマ】在地社会の主体性・自立性を重視し、周縁地域が国家に向けて進化していく過程を追求する。



藤山 龍造
FUJYAMA Ryuzo

博士(史学)
教授

研究分野 先史考古学／考古学の方法論

【最終学歴】慶應義塾大学大学院
【担当授業科目】考古学研究(演習)／考古学研究(講義)
【研究テーマ】先史時代の自然環境と資源開発／考古学の方法論／考古学的方法の領域横断的な可能性



若狭 徹
WAKASA Toru

博士(史学)
教授

研究分野 日本考古学・古墳時代・社会構造論・遺跡の保存活用

【最終学歴】明治大学
【担当授業科目】考古学研究(講義)、考古学研究(演習)
【研究テーマ】古墳時代首長の地域経営政策を研究し、なぜ巨大古墳が造られたのかを解明する

地理学専攻

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 地理学専攻 教員一覧 >>>





川口 太郎
KAWAGUCHI Taro

博士(理学)
教授

研究分野 都市地理学／社会地理学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】人文地理学演習Ⅰ／地理学合同演習
【研究テーマ】都市における空間資源の利活用。人口減少時代の大都市社会空間の変容。ワークライフスタイルと住まいの選択



梅本 亨
UMEMOTO Tohru

理学博士
教授

研究分野 気候学・自然地理学

【最終学歴】東京都立大学大学院
【担当授業科目】自然地理学演習Ⅰ／地理学合同演習
【研究テーマ】日本列島の山地の気候と植生を中心とした自然景観の研究。スカンジナビアの気候と植生を主体とする北極圏の自然地理学



大城 直樹
OSHIRO Naoki

博士(文学)
教授

研究分野 文化地理学／地理思想史

【最終学歴】大阪市立大学大学院
【担当授業科目】人文地理学演習Ⅱ／地理学合同演習
【研究テーマ】地域文化の生産・流通・消費／近現代における都市と身体の関係性の変容



中澤 高志
NAKAIWA Takashi

博士(学術)
教授

研究分野 経済地理学／都市地理学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】人文地理学演習Ⅲ／地理学合同演習
【研究テーマ】日本における「労働の地理学」の実証的展開／世代交代に伴う大都市圏の構造変容



荒又 美陽
ARAMATA Mijo

博士(社会学)
教授

研究分野 人文地理学／フランス社会論

【最終学歴】一橋大学大学院
【担当授業科目】地誌学演習Ⅰ／地理学合同演習
【研究テーマ】近現代フランスにおける都市計画事業の思想的背景に関する研究



山本 大策
YAMAMOTO Daisaku

Ph.D.
教授

研究分野 人文地理学(経済地理学、生活環境論)

【最終学歴】ミネソタ大学大学院
【担当授業科目】地誌学演習、大学院合同演習
【研究テーマ】生活環境や経済機会の変化と地域的対応に関する研究



中川 秀一

NAKAGAWA Shuichi

博士(地理学)
教授

研究分野 経済地理学 資源管理論 山村地域論

【最終学歴】名古屋大学大学院
 【担当授業科目】地誌学特論ⅠB／地理学合同演習
 【研究テーマ】農村空間の商品化と田園回帰の相互関係、生命資源の再生産を基盤とする内発的地域発展



佐々木 夏来

SASAKI Natsuki

博士(環境学)
講師

研究分野 自然地理学／地形学

【最終学歴】東京大学大学院
 【担当授業科目】自然地理学演習Ⅱ／地理学合同演習
 【研究テーマ】山岳湿地の形成と発達に関する地形学的研究

臨床人間学専攻(臨床心理学専修)

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 臨床人間学専攻(臨床心理学専修) 教員一覧 >>>



岡安 孝弘

OKATATSU Takahiro

博士(心理学)
教授

研究分野 教育臨床心理学／健康心理学／認知行動療法

【最終学歴】上智大学大学院
 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／健康心理学特論／臨床心理基礎実習
 【研究テーマ】思春期・青年期における精神的健康に関する研究



諸富 祥彦

MOROTOMI Yoshitaka

博士(教育学)
教授

研究分野 人間性心理学 自己成長の心理学 学校臨床心理学

【最終学歴】筑波大学大学院
 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床心理基礎実習／臨床心理面接特論／学校臨床心理学特論
 【研究テーマ】実存的心理療法、人間性心理学、フォーカシング、学校心理臨床、不登校、いじめ、スクールカウンセラーの実践活動



伊藤 直樹

ITO Naoki

博士(人間学)
教授

研究分野 学生相談・教育相談・特別支援教育

【最終学歴】東京大学大学院
 【担当授業科目】思春期・青年期論／臨床人間学総合演習／心理学研究法特論／臨床心理実習
 【研究テーマ】思春期・青年期における学校での適応の改善に関する研究



高瀬 由嗣

TAKASE Yoji

博士(心理学)
教授

研究分野 臨床心理学／心理査定

【最終学歴】中京大学大学院
 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床心理実習／臨床心理査定演習
 【研究テーマ】心理テストの科学的基盤の検討



加藤 尚子

KATO Shoko

博士(コミュニティ福祉学)
教授

研究分野 臨床心理学／コミュニティ心理学

【最終学歴】立教大学大学院
 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床心理実習／コミュニティアプローチ特論
 【研究テーマ】心理コンサルテーション／アタッチメント・トラウマの心理療法／虐待を受けた子どもの養育支援



竹松 志乃

TAKEMATSU Shino

准教授

研究分野 臨床心理学／心理療法

【最終学歴】上智大学大学院
 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床心理面接特論
 【研究テーマ】イメージを媒介とする心理療法の研究・実践／テス・エデュケーションに関する臨床心理学的研究・実践



佐々木 掌子

SASAKI Shoko

博士(教育学)
准教授

研究分野 臨床心理学／性科学／性心理発達

【最終学歴】慶應義塾大学大学院
 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床心理学特論B／臨床心理基礎実習
 【研究テーマ】多様な性に対する臨床心理学的支援



濱田 祥子

HAMADA Shoko

博士(心理学)
准教授

研究分野 児童期、思春期の臨床心理学

【最終学歴】名古屋大学大学院
 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床心理学特論／臨床心理実習
 【研究テーマ】児童期、思春期の心理的問題、行動上の問題についての研究



川島 義高

KAWASHIMA Yoshitaka

博士(医学)
准教授

研究分野 臨床心理学、医療心理学

【最終学歴】日本医科大学大学院医学研究科
 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／臨床心理実習
 【研究テーマ】自傷・自殺予防、精神疾患に対する心理社会的介入、専門職連携・協働

臨床人間学専攻(現代社会学専修)

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 臨床人間学専攻(現代社会学専修) 教員一覧 >>>



大畑 裕嗣

OHATA Hiroshi

教授

研究分野 社会運動論／市民社会論

【最終学歴】東京大学大学院
 【担当授業科目】臨床人間学総合演習／現代社会学演習Ⅱ
 【研究テーマ】市民社会における出来事の連鎖としての社会運動



内藤 朝雄

NAITO Asao

准教授

研究分野

社会学／臨床社会学／心理社会学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】臨床人間学総合演習／現代社会学演習Ⅳ
【研究テーマ】学校や職場や地域などのいじめ／民族・宗教紛争／自由な社会の構想／心理-社会的な秩序の生態学モデル／進化理論の応用



平山 満紀

HIRAYAMA Maki

教授

研究分野

セクシュアリティの社会学／身体と身体文化の社会学

【最終学歴】東京大学大学院博士課程単位取得退学
【担当授業科目】臨床人間学総合演習／現代社会学演習Ⅴ
【研究テーマ】日本におけるセクシュアリティの近現代史、セクシュアリティの国際比較研究、健康と病



昔農 英明

SEKINO HIDEAKI

博士(社会学)
准教授

研究分野

国際社会学、多文化共生論

【最終学歴】慶應義塾大学大学院
【担当授業科目】臨床人間学総合演習／現代社会学演習Ⅰ
【研究テーマ】移民・難民保護の比較社会学的研究



宇田 和子

UDA Kazuko

博士(政策科学)
准教授

研究分野

環境社会学／保健医療社会学

【最終学歴】法政大学大学院
【担当授業科目】臨床人間学総合演習、現代社会学演習Ⅲ
【研究テーマ】環境被害と生活回復、公害・薬害・食品公害の補償政策の比較

臨床人間学専攻(教育学専修)

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 臨床人間学専攻(教育学専修) 教員一覧 >>>





齋藤 泰則

SAITO Yasunori

教授

研究分野

図書館情報学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】図書館情報学演習・図書館情報学特論・情報サービス特論
【研究テーマ】知の典拠性(cognitive authority)論／図書館のレファレンスサービスにおける質問応答機能／認識論理にもとづく知と無知の定式化



平川 景子

HIRAKAWA Keiko

教授

研究分野

社会教育

【最終学歴】早稲田大学大学院
【担当授業科目】社会教育学演習、社会教育実践論
【研究テーマ】女性の主体形成／労働者の主体形成／社会教育実践分析／学習支援者の力量形成



青柳 英治

AOTAGI Eiji

博士(図書館情報学)
教授

研究分野

図書館情報学

【最終学歴】筑波大学大学院
【担当授業科目】図書館情報学演習／図書館経営特論
【研究テーマ】図書館専門職員の人的資源管理／専門図書館のサービス活動と管理運営



駒見 和夫

KOMAMI Kazuo

博士(歴史学)
教授

研究分野

博物館学、歴史考古学

【最終学歴】東洋大学大学院
【担当授業科目】教育学総合演習、博物館学演習Ⅰ
【研究テーマ】生涯学習を見据えた博物館の役割と機能、社会包摂に位置づく博物館、博物館の哲学と倫理の検討



三浦 太郎

MIHURA Taro

教授

研究分野

図書館情報学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】図書館情報学演習／図書館文化特論
【研究テーマ】図書館史、特に近現代日本の図書館制度に関する考察／国際的な図書館協力



山下 達也

YAMASHITA Tatsuya

博士(教育学)
教授

研究分野

教育史、比較教育学

【最終学歴】九州大学大学院
【担当授業科目】教育社会史特論、教育学演習Ⅶ
【研究テーマ】日本を含むアジアの学校・教員に関する比較史研究



伊藤 貴昭

ITO Takaaki

博士(教育学)
教授

研究分野

教育心理学

【最終学歴】慶應義塾大学大学院
【担当授業科目】教育学総合演習、教授学習心理学特論
【研究テーマ】認知過程に基づく教授学習研究



関根 宏朗

SEKINE Hiroaki

博士(教育学)
教授

研究分野

教育人間学、教育思想史

【最終学歴】東京大学大学院教育学研究科博士課程修了
【担当授業科目】臨床人間学総合演習、臨床教育学演習Ⅶ、教育人間学
【研究テーマ】政治的主体形成をめぐる理論的・思想史的研究



井上 由佳

INOUE Yuka

Ph.D.
准教授

研究分野

博物館学、博物館教育学、国際理解教育、博物館の人材育成

【最終学歴】Institute of Education, University of London
【担当授業科目】臨床人間学総合演習、博物館教育論特論
【研究テーマ】国内外の博物館の社会的・教育的役割、博物館人材育成の国際比較